

2/53
7
28

セ×131



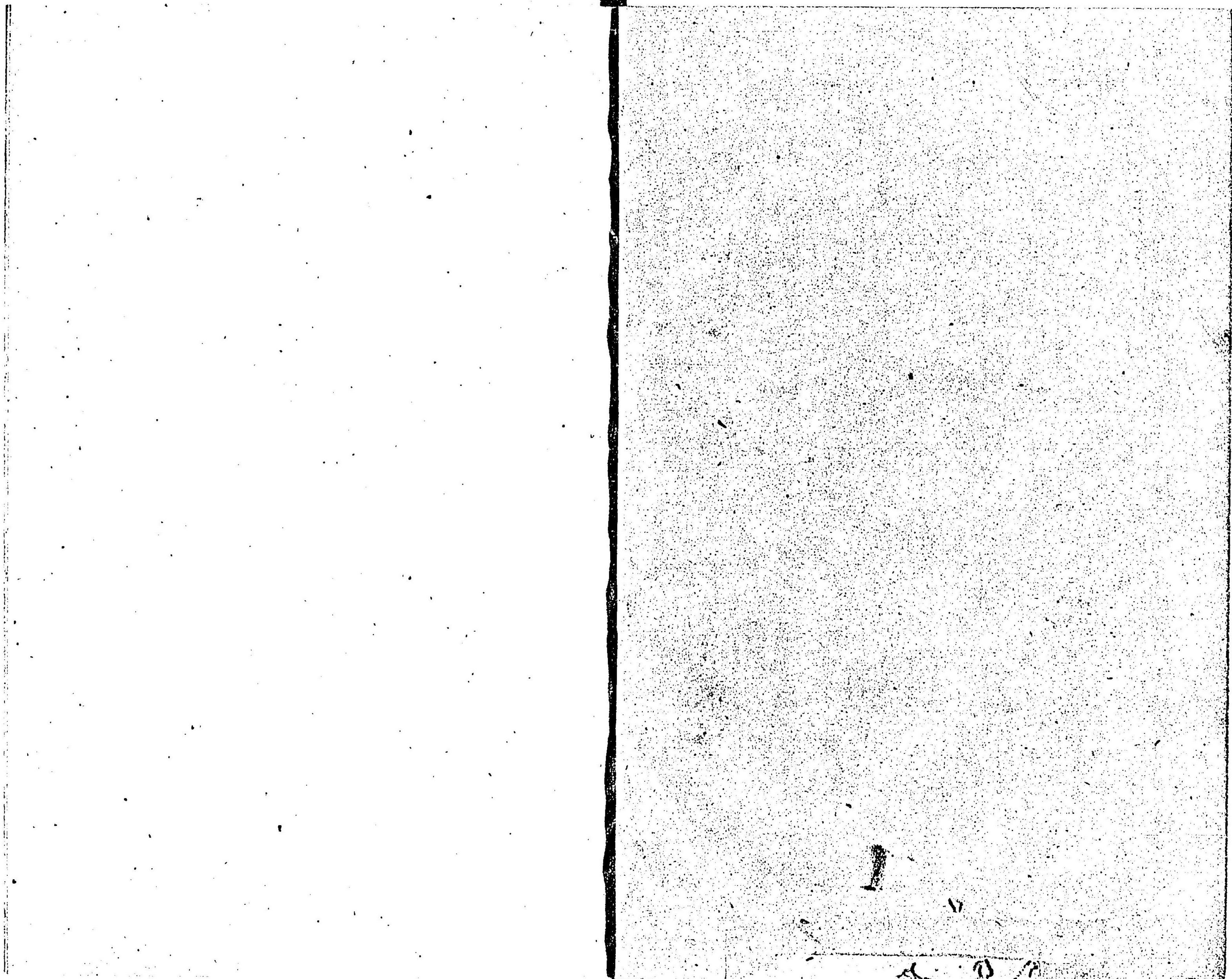
高山紀齋述

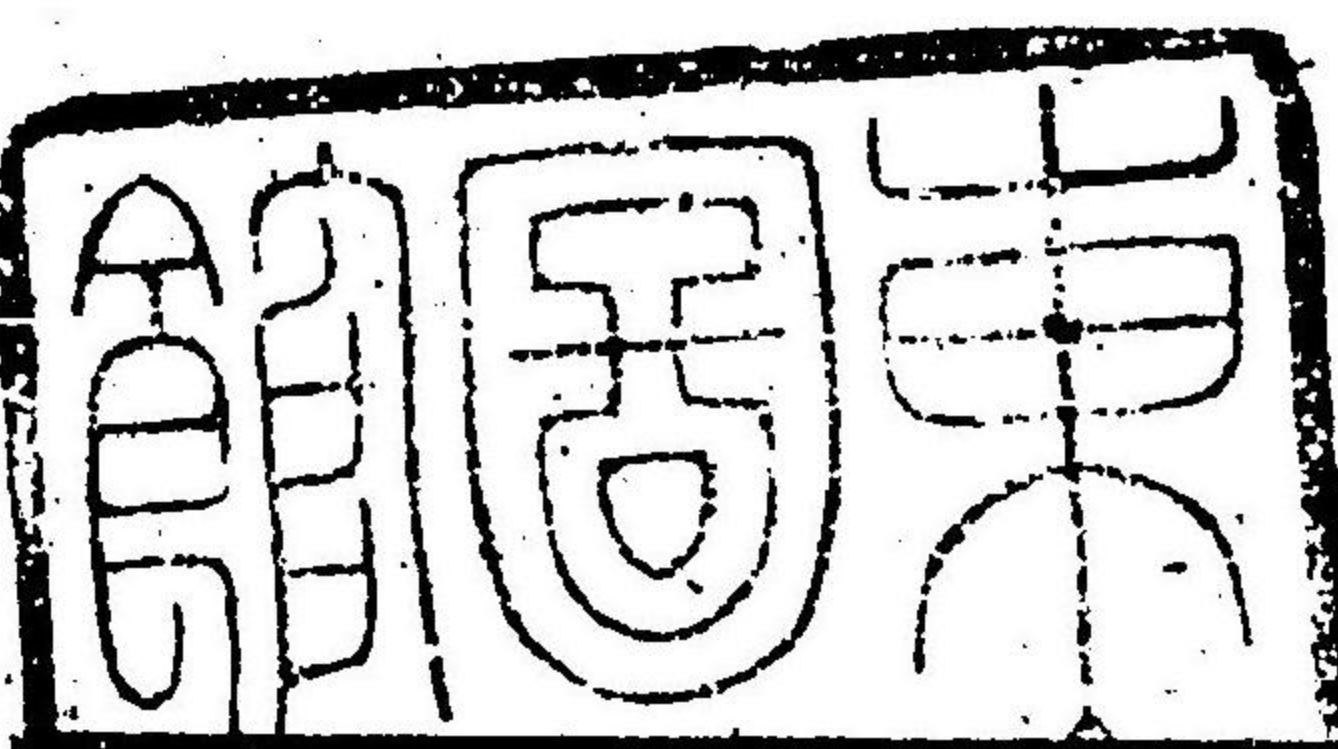
齒の養生全

定價金拾錢

有新堂藏版







齒乃養生

高山紀齋述

凡人の世に生るゝや健康無病にして長壽を保つよ
 と幸福なるをなし長壽を保さんと欲せば養生の道
 を守るに若くはなし其法を百般なきを先づ飲食
 を慎むを以て最第一とて而して食物を資ふは道也
 曰勝なり古人も口を生活は門戸といふは抑も齒科
 也如き其養生は第一道は保護を以て術なり然る
 我古來は風俗して齒牙は事を殊に疎漫にして其
 所屬脱落を皆自然に任せて敢て心に留めざるなり

歎きても尙餘りあり今茲に齒牙病患に關する此事
 を述べて其養生法を説んとし
 齒牙を口腔に位して其功用は只顔面の容貌を装ひ
 聲音を調ふるの事ならず飲食は消化をなす生活第
 一は要器なり其齒に二種あり別あり一を乳齒と云ひ
 一を成齒と云ふ乳齒は小兒初生後五六ヶ月の頃
 より萌牙して幼時の食物咀嚼に供す總て其數二十
 枚なり其質堅實ならずして腐蝕毀損し易し故に大
 切に保護すべきをのみに其父母たるをの唯一時
 の發生して後に良齒を出すべしとて意を注がざる

何事ぞや能く之を保存せば其兒の身体を自ら健
 康なり且之を齟齬まで無事ならしめば顎骨は發育
 完全にして次は生ずる成齒は齒列を正しく其顔貌
 は天與の美相を保つべし然るも世は父母の事なら
 ず從來の齒科者流だも生理學は何物あるを知らざ
 るより乳齒は落るを次に生ずる成齒は居位を護る
 色のなれば其腐蝕は自然の理ありと云ひ又其齒の
 弛を動くを見れば成齒をして生し易しむとて
 直之を拔去し更に考ふる所あり此等此事を皆齒
 牙發生に妙期のあるを辨へざるの陋見をり出る者

かり總て乳齒腐蝕をば齒齦より小さき腫物滋生し
 其焮腫の爲に隣位に齒を傾せ或は次に生ずる齒
 を内に向ひ或は外に背き列位錯亂して所謂錯齒と
 かり其顎骨の發育も自ら正しうらず天與の美貌を
 毀損し生涯に憾を抱ふ豈恐きざるべらんや
 小兒初生後五六ヶ月を乳齒漸次生じて食物咬
 咀に用に供ふ其乳齒を晚くも三十ヶ月の中ふら出
 齊ふあは然るに其時期に當りて身体の虚弱あはる
 若くハ一時の病患あはば發生を妨ぐるものあり之
 を名けて齒牙難生症と云ふ此齒牙難生ハ更に小兒

病は原因をなして最も恐るべき疾患を引起すと多
 し殊に胃腸を傷ひ腦を害ふ吐乳青便腦膜炎等症
 を誘起せ又「ヂフテリヤ」の如き流行病も此に關係し
 て發することありと云ふ

小兒七八歳の頃齒は數を算へ見るに上下拾枚づゝ
 あるを皆乳齒あり若し此拾枚は外ならば其齒を必
 らず成齒なり六七歳を十二三歳の間に於て乳齒
 自ら脱落し成齒と替る之を名けて齶齦と云ふすべ
 て齶齦は頃ハ必ず齒科小委締て診査を受くべし
 をばむす已に齒は痛まありて後醫より委締る者大あ

る悔あると多し凡其齒牙は疾患を全体に波及し全
 体は虚弱を又齒牙は疾患を如斯相互に關涉を
 るをばおまはば齒牙は疾患を輕視して生涯に健康を
 誤るを云ふ迄もかく殊に高貴は家小の幼兒を育る
 に常小室内に居らしめ夜更に寐糸膏梁は食物小飽
 しめ過暖ある衣服を被せ或は漸く言語を授けば直に
 教育を加へんとて早く諸學を習せしむ是父母の痴
 情をりして却て愛兒は身體を害おはしむ思はざる
 べけんや
 夫を養育善良を得んとせば六七歳は頃迄日々戶外

小遊戯せしめ新鮮の空氣を呼吸し神思を活潑にし
 品行端正ある人な風儀を見習はしむべし如此育て
 し兒は體力健康にして其齒を亦堅實ある小兒生齒
 此後を母乳をこめて足らず歐米諸國にては大概九
 ケ月を経れば母の乳を斷ち牛乳米麥粉西國米山
 慈姑蒸餅肉羹汁等を調理して喰はしむるを法とせ
 て我國にては二歳三歳に至るまで永く母乳を吮
 しむるを以て良事と心得ざるも其實は徒小母體を
 衰耗せしむるのみならず其兒も却て虚弱とあり之
 が爲小乳齒多くハ齲腐し成齒も亦脆弱とあるもの

夫て凡て我國人ハ歐米比人に比ぶるに齒列齊ハズ
 且錯齒多し是永く母比乳を哺ハ志め爲小禹齒を生
 ずるをりしあるものあらんと思ハる大抵我國人比
 母乳を斷りハ其兒比強弱よとりて遲速あるべきれ
 ども大約十ヶ月より十二ヶ月迄を最良とす宜志く
 小兒科比診察を経て其指揮を受くべし
 幼兒物を記憶するに至れば其母之に教ゆるに常に
 淨水よて口内を嗽ガしめ食物比渣滓を洗ひ除くと
 を慣習とあさしむを務むべし是兒比齒牙比生
 涯堅實ある良結果を得る事は人比意想比外なるを

乃あり

成齒を上下皆齊ひて三十二枚あり其生ずるに順序
 あり五六歳より始まり智齒比生ずるに至るを二十
 三四歳なり成齒を一回生じて復と生せず故り若し
 脱落とまバ生涯比缺損のみならず其人老衰比容貌
 と爲る尙亦之が爲に胃腸の病を生じ身体虛弱とあ
 る故に保齒論よも云へる如く千金の重價も一片の
 齒牙を償はず王侯比富も之を如何ともせざる事能ハ
 ずと人々茲に注意して之を保護せずんばあるべあ
 らざるあり齒比毒物とるを比ハ酸類あり常に食す

夫凡て我國人ハ歐米比人ニ比ぶるに齒列齊ハズ
 且錯齒多し是永く母比乳を哺ハ止め爲小齒を生
 ずるをりしるるをのあらんと思ハる大抵我國人比
 母乳を斷りハ其兒比強弱よりりて遲速あるべ
 ども大約十ヶ月より十二ヶ月迄を最良とす宜
 小兒科比診察を経て其指揮を受くべし
 幼兒物を記憶するに至れば其母之に教ゆるに常
 淨水よて口内を嗽ガくめ食物比渣滓を洗ひ除くと
 習慣とあさむを務むべし是兒比齒牙比生
 涯堅實ある良結果を得る事は人比意想比外なるを

乃あり

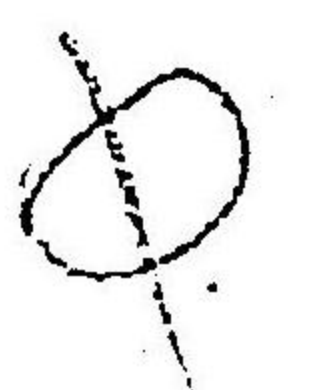
成齒を上下皆齊ひて三十二枚あり其生ずるに順序
 あり五六歳より始まり智齒比生ずるに至るを二十
 三四歳なり成齒を一回生じて復と生せず故り若し
 脱落とせば生涯比缺損のみならず其人老衰比容貌
 と爲る尙亦之が爲に胃腸の病を生じ身体虛弱とあ
 る故に保齒論よも云へる如く千金の重價も一片の
 齒牙を償はず王侯比富も之を如何ともする事能ハ
 ずと人々茲に注意して之を保護せずんばあるべ
 らざるあり齒比毒物たるを比ハ酸類あり常に食す

る所は醋酸類も素より害あれども口内には津液ありて之を中和し其害を防ぐべし然るに食物は渣滓齒間に遺留する時を直に酸敗して齒質を腐蝕す故に食後必ず口内を掃除を怠るべからず
其他齒を傷ふものは冷熱過度は食物あり殊に温熱は食物を取りし後直に寒冷物を食ふが如きは其齒皮を破裂せしめ是を硝子器は冷あるを急し温湯に投じれば乍ち破裂せると同じ齒は外面を恰も硝子は質に似たをばかり恐るべけんや
齒牙は掃除を怠らざるは衛生は第一ありしる

に我國人は風俗も貧賤は人の常に不潔にして口内悪臭を放つも掃除を怠る事なく富貴は人は研磨せりも只管その白色を旨として外相を粧ふは健康を守るは主旨に於ては曾て知らざるを如く粗末は齒磨散を以て強く磨研し其實質を剝削し却て脆弱ならしむるを往々見る所あり
齒刷、齒磨粉を用ゆるは齒面に附着する汚物粘液を除き齒面を滑澤し齒齦を硬固にせん爲なり其磨粉は極めて細微な粉末を良とす齒刷は其毛は長き物を用ゆべし且磨粉は代ふるは純良は石鹼を用

歯磨粉の
 効果
 歯
 磨
 粉
 の
 効
 果
 歯
 磨
 粉
 の
 効
 果
 歯
 磨
 粉
 の
 効
 果

ゆるも可あり
 我藥局ニ於て製する所は齒磨粉ハ米國某醫士創製
 小係る者ふして殊小精微を極めたり齒牙は健全を
 要するは此齒磨粉小志くものあらず
 唇舌は運動を常に齒面を磨措して汚物は付着する
 を防ぐの作用あり睡眠中を言語せざるを以て唇舌
 運動せず汚物を恣に齒面小粘着を人々毎朝口内は
 不潔を覺へ殊に酒客を飲酒の後直に眠るを常とせ
 故に眠り醒れば口内不快を覺ゆるものと甚しき者之
 が爲る此故小毎朝必らず口内を淨嗽せべし其法



重炭酸曹達少許を水小溶して嗽ぎ齒刷小少許は
 齒磨粉を附着齒は外面を横小内面を縦小磨くべし
 刷毛ふて稍々齦肉を磨措する其質を硬固小し齒
 と密着せしむるは利益あり白齒を汚物は殘留し易
 處あり故小其齒面を掃刷して後ち尙布片ふて綿
 密に拭ふを良とす
 日々掃除を怠らざるも齒石を特に附着し易きをの
 かり況して平生不潔懶惰は人小齦積むること甚
 だしく齒面茶褐色或ハ暗黒色小汚染するに至る如
 斯んバ遂に齒と齦と相離れて齒根長小挺出浮動

して終つて脱落せるに至る其害擧て數ふべからず故
 して毎歳一二回を必ず齒醫に委ねて之を剝落せし
 べし此術を齒科に未だあまねく知らざる所にして世
 の人も多くハ意を注がず尤も遺憾なりと云ふべし
 あり

齒牙は齲腐を金銀を以て之を填補し脱落せるを
 は義齒を以て之に代ふ其巧妙なるものを天然のも
 のと少しも異なることかく飲食消化言語聲音を調
 へ衰老は容貌を復せべし是人世護身は喫緊良法お
 り然るに近世齒科術は稍開けんとせるにあらざり

科も患者も未だ其功用を詳らかにせず偏に之を粧飾
 具と思ひ完全の齒を特に金にて包み或ハ齒間を
 詰め口を開げバ輝々たる光彩を放つを以て誇顔お
 するものあり復た笑ふべし其甚ださからずや是皆
 啻に保齒に方法に反るのみならず却て齒を衰耗せ
 しむるの憂ひあり所謂金銀は貴價を費し疾病の困
 苦を買ふものといふべし又齲齒を補ふに金屑を槌
 して打填せるは法あり是又疼痛堪へ難さのみあら
 ず其激動して齒質を傷け齒根を包める齒は膜を損
 傷し數年ならずして齒を再び動搖し或は脱落せるに

至る故に近世を各國共に彼の打擲して填充せるは
 法を皆之を廢りといふ「アマルガム」を以て填むる
 は其方法容易よりて價も亦廉なり然れども「アマ
 ルガム」の汞銀を混和せし物あるが故に其害を論じて
 止むべしと曾て米國政府衛生局に於て之を精査し
 て全く有功無害と者と判定せし其後ハ世間一般信
 用せること、あきり
 義齒は床を製するに古來金銀を用ゆるも良事であ
 らず米國よては近世其所害は多きを知り皆ゴム製
 へ改良せし然るに今猶金銀ハ所害なく口熱を解し

又
 大
 又

或る久しきに堪ゆるとて之を稱用せるは齒科醫あ
 るも此等此説を主張せるものハ恐らくハ世人黃
 金を貴ぶは情念に乗じ許多は利を貪るは計にむさ
 ぶるあり我國は齒醫を殊更ふ古昔より野師香具師
 比輩よきて騙誣を以て利を射るを風習とせし東西
 共に同じ弊風あるハ甚だ歎うべき事あり
 齒牙保護を論ずるに當て最大至極は凶毒あり痛く
 之を戒しめて此冊子を終らんとし其凶毒とは我國
 婦人ハ黒齒あり之を染むるハ五倍子粉は酸化鐵を
 用ゆる尚又ある糸したを以て齒は外面を磨削し滑澤を

るを粗慥より更に染着し易らむ夫齒を土質より酸に逢へば分解せる化學作用は本性あり然るに
 ろ糸じたるを硫酸にて最も強き酸類あれば其齒の外
 面を銷落せるのこからず全体を損壞せるを論を待
 ざるあり余日々診察せる所は患者によつて考窮せ
 るに婦人比齒病多きは男子に幾倍し又外國は婦人
 より幾十倍せり是果して黒齒の害より因るるべし之
 が爲に消化機能を傷ひ胃病貧血「ヒステリ」病の人
 最も多し其結局は身体虚弱とあり健兒を産む能
 はず遺傳して子々孫々延ぶべし悲歎せざるべし

んや此文明開化の運に於る苟も衛生上に害ありと
 認むるを皆其弊風を改進するに獨り婦人黒齒比舊
 弊ハ之を禁戒せるものあり今夫官府の違式條例中
 膚割の例あり膚割は害を黒齒に比らば衛生上如何
 注差ひありや古來因襲は久しき世間其非を論ぜざ
 るを復惟しむべきに至りありき文明の諸君宜しく
 此より注意して共に禁止あらんよ亦是富國強兵の
 一助と爾云ふ

齒の養生畢

明治十五年十月廿八日 版權免許并出版

著者兼出版人

東京府士族

高山紀齋

木宅芝區芝伊皿子臺町七拾五番地
治療所京橋區銀座三丁目拾七番地

博勞町二丁目

島村利



發兌書舖

石黒忠憲先生題辭
長松 幹先生序文
高山紀齋著述

保齒新論

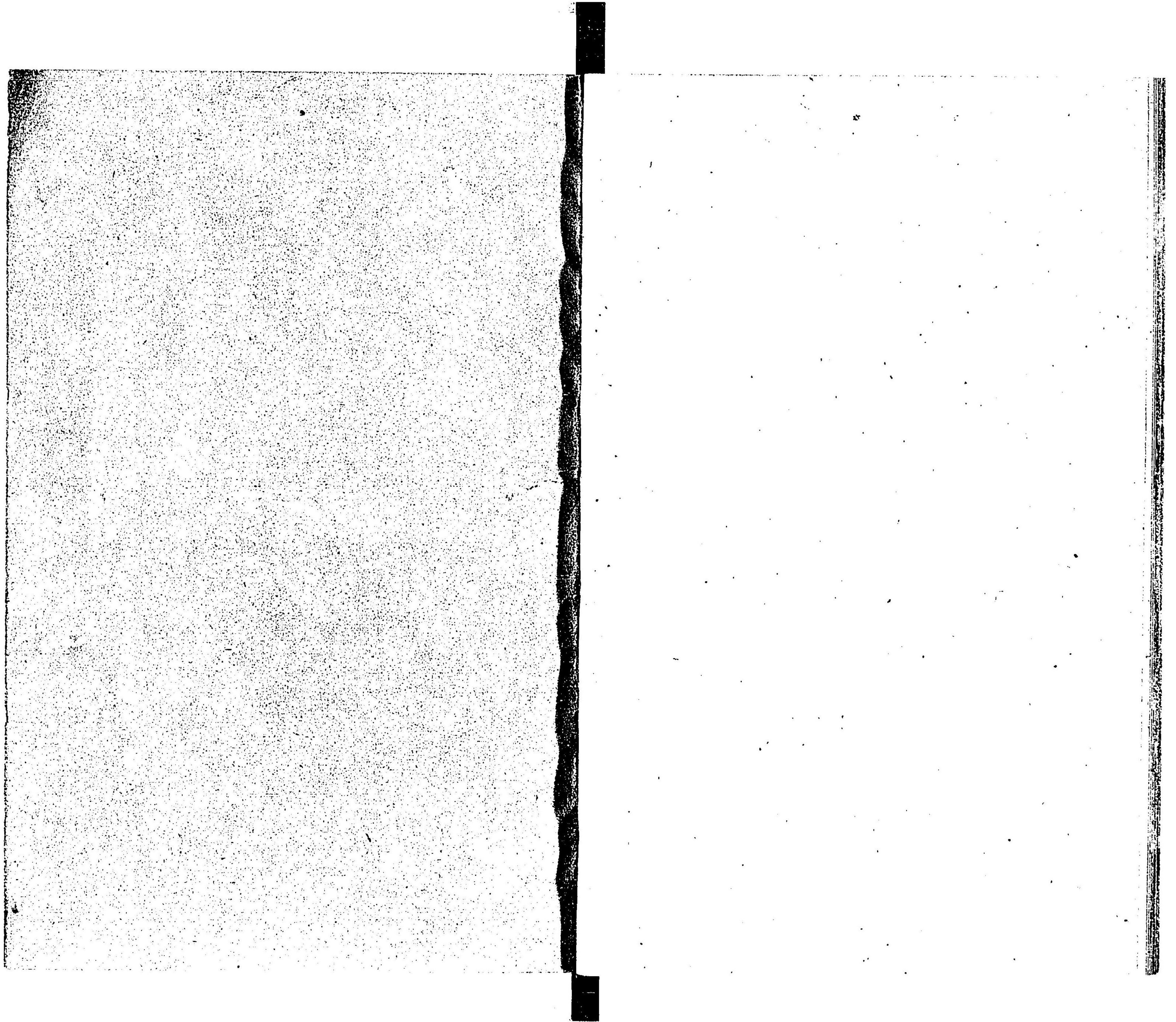
全二冊

口腔齒牙ハ食物榮養ノ入門ニシテ之ヲ保護セザレ
ハ全身ノ病患ヲ發シ以テ夭折スルハ論ヲ待ズ我國
古來爰ニ注意スル者少シ曩ニ高山先生齒科醫學ヲ
米國ニ學ビ以テ其妙技ヲ傳ヘ歸朝ノ後主トシテ齒
牙ノ健全保護ノ方法ヲ説明セラル於是乎世間初メ
テ其眞理ヲ知ルモノ多キニ至ル又々此保齒新論ヲ
著シ衛生上重要ノ件二十編ヲ述ヘ且精密ナル圖二

十五枚ヲ插ミ了解ニ便ナラシム唯ニ内外醫家ノミ
ナラス衛生ヲ謀ルノ人々必讀熟知シ玉フベキ良書
ナリ請フ諸君ヨ尋常ノ野史雜誌ト同視スルコトナク
普ク購讀シ玉ハンコヲ

東京馬喰町二丁目

發兌書鋪 英蘭堂 島村利助謹白



カ131

大日本教育會館			東
第五室			新
一册	号	一 架	三
函			

[Redacted]

特29

923

禁
複
写

060246-000-8

特29-923

歯の養生

高山 紀斎/述

M15

CBL-0105

